

## 令和2年度 第1回 木材需給会議 資料の概要

### 1. 一般経済の動向 (資料1)

2020年1～3月期の実質GDP成長率(2次速報)は、前期比-0.6%。設備投資は増加したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために企業への休業要請、家計への外出自粛要請により個人消費が2四半期連続で減少したほか、世界経済悪化とインバウンド需要の落ち込みを受けて輸出が急減した。緊急事態宣言が解除され景気は最悪期を脱しつつあるが、個人消費の落ち込みを一気に取り戻すことは不可能であり、4～6月期は前期比-6.3%とリーマンショック時(同-4.8%)を上回る落ち込み幅となる見込み。新型コロナウイルスの影響で世界経済が悪化しインバウンド需要はほぼ消失しており、輸出の悪化も加速する。

7～9月期には、雇用、所得の極端な悪化の回避や、特別定額給付金などの政策効果により個人消費は持ち直し、前期比+2.5%とプラス成長に復帰する。中国をはじめとする海外での経済活動の再開や世界的なIT関連需要の回復で輸出は底打ちするものの、設備投資の落ち込みの継続、インバウンド需要の回復遅れのため、4～6月期の落ち込みを十分に取り戻すことが出来ずV字回復は難しい。年度下期も、景気の回復は緩やかなペースにとどまる見込みであり、2020年度の実質GDP成長率は前年比-4.8%と大幅なマイナス成長に陥る。

当面の景気下振れリスクは、感染拡大の第2波、第3波の到来による緊急事態宣言の発令等により経済活動が停滞すること。企業のリストラや設備投資計画の下方修正で景気回復が遅れる懸念がある。

2021年度は、感染拡大による経済活動への制約が徐々に薄らぐうえ、オリンピック・パラリンピック開催によるイベント効果の押し上げや世界経済が本格的に立ち直ることなどを背景に景気の持ち直しは続く。

### 2. 住宅着工見通し (資料2)

2019年度の住宅着工戸数の累計は、前年比-7.3%の88.4万戸に減少。5年ぶりに90万戸を下回った。

利用関係別の内訳をみると、持家住宅、分譲マンション及び貸家の着工戸数が、それぞれ前年度より減少、分譲住宅一戸建ては微増。貸家の減少は、相続税対策への駆け込みの反動や、金融機関の貸出姿勢の厳格化が続いたことによるとみられる。最近では持家についても米中の経済摩擦激化に伴う輸出の減少等による製造業の景況感の悪化等を反映し、弱い動きとなっていたことが要因としてあげられる。

2020年4月における住宅着工戸数の季節調整済年率換算値は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言に基づく外出自粛等の影響で、2011年9月以来となる80万戸割れとなった。

受注状況も、2020年3月の住宅生産団体連合会による景況判断指数(受注実績)は、持家、貸家ともに非常に厳しい結果であり、当面は着工の減少が続くことが予想される。

2020年1-3月期のGDP一次速報に基づくシンクタンク(10機関)の予測によれば、2020年度の住宅着工戸数は平均78.8万戸と前回(84.7万戸)よりも大きく下方修正された。

### 3. 住宅業界の動向 (資料3)

住団連が実施の住宅会社の「支店、営業所の営業責任者に対する住宅業況調査」の結果は、戸建注文住宅の2020年1月～3月期の受注実績は、前年10月～12月期の見通しの+21ポイントに対し+1ポイント、金額でも+9ポイントに対し+1ポイントと見通しを下回った。

また、住団連の「低層住宅に関する経営者の景況感調査」では、対前年比の総受注戸数は、-92ポイント、金額でも-88ポイントとなり前回のマイナス値をさらに上回った。

これに対するコメントとしては、「駆け込み反動減とコロナ禍影響で大幅前年比減」、「1棟単価の上昇や戸建購入者のマインド回復等明るい兆しはあったが、消費増税の反動が大きく全体的に大幅減となった」等、消費増税の駆け込み反動減や新型コロナウイルスの影響等のコメントが多い。

弊社、戸建住宅の受注も新型コロナウイルスの影響を受け、4月、5月の受注は大きく減少。緊急事態宣言の解除後は徐々に展示場来場者も増えてきてはいるが、6月度の受注棟数は更に厳しいと推測される。

### 4. 木材業界の動向 (資料4)

販売量、仕入量について、流通部門、製造部門共に3月は減少、4月、5月は大きく減少した。販売価格、仕入価格は3月、4月は流通部門、製造部門とも下降傾向、5月は、流通部門は変わらず、製造部門では下降した。

5月時点の3ヶ月後の相場予想に関しては、米材、南洋材、北洋材(欧州材含む)及び国産材のいずれも、流通部門、製造部門とも弱含み、建材も弱含みの予想。

3月は、新型コロナウイルスの影響が大きくなり収束の時期も見通せないことから、国内外の需要の見通しが立たない状況で、特に九州地方では需要の減少で原木の価格が下落。4月には、新型コロナウイルスの影響が拡大し、取扱量は減少、価格は弱含みという見通しが多数を占めた。大手住宅メーカー、ビルダーからこれまでにない厳しい受注状況であるという声もある。現状では、プレカット工場は受注残をこなしている状況であり、夏場以降の仕事量が大幅に減少することが予想される。5月は、新型コロナウイルスの影響が更に拡大しており、国産材を中心に需要の先細りから需給バランスが崩れ、価格の一層の下落が強く懸念されている。

## 5. 木質バイオマスの動向 (資料5)

2019年度第4四半期(2020年1 - 3月)の燃料調達量は、未利用木質が約39.3万絶乾トン(前期比105%)、一般木質は29.2万絶乾トン(前期比85%)となり、特に海外チップ・ペレットは前期比69%と大きく減少、PKSも前期比88%と減少。この結果全体では前期比94%と減少した。

2019年度累計で燃料調達量の割合を見ると、未利用木質が43%、一般木質等が53%。一般木質等は海外燃料(海外チップ、ペレット、PKS)の比重が大きい。

燃料材価格のうち、未利用木質の針葉樹チップ価格は横ばいからわずかながら上昇傾向でこの1年では2.6%の上昇、一般木質の針葉樹チップ価格はわずかながらではあるが下落傾向が続いている。なお、価格の動向は地域によって差異が見られる。

未利用木質バイオマス発電所の導入容量はほぼ横ばいで、FIT認定を受けたもののうち容量ベースで77%相当が既に導入済み。令和2年度に運転開始を予定している発電所のうち燃料内訳が確認出来たものを見る限りでは海外燃料がメインとなっているが、地域により今後も未利用材の需要増が想定される。

なお、燃料材調達に関しては新型コロナウイルスの影響は顕在化していないように見える。

## 6. 木材輸出の動向 (資料6)

2020年に入ってから木材輸出数量は、3月までは前年比で大きく落ち込んだが、4月は特に中国で大きく回復した。1 - 4月全体としては、丸太は36万7千 $m^3$ (前年比-6.8%)、製材は4万7千 $m^3$ (同-7.8%)、合板は3万2千 $m^3$ (同-24.6%)であった。

輸出総額は100億円で前年比16.5%の減となった。国別には、中国は21.2%減の43億円、第2位のフィリピンは31%減で19億円、第3位の韓国は6.2%減で10億円、第4位の米国は3.4%減の9億円となった。

最大の輸出相手先である中国については、昨年来の欧州虫害木大量輸入による価格の低下などにより、日本からの輸出は昨年の後半以降減少し、特に年明けには新型コロナウイルスの影響も加わり大きく減少した。中国国内における製材工場の稼働率は4月以降回復してきているが、中国の輸出入に係る海外産地や消費地との関係、特に米中貿易問題の成り行きが不透明な状況が続いているため、日本からの木材輸出の先行きについて見通しにくい状況である。

## 7. 紙パルプ産業の需給動向 (資料7)

紙・板紙の国内出荷は、紙では、花粉飛散等の季節的要因に加え、新型コロナウイルスの影響によるティッシュペーパー、トイレットペーパーの需要増により衛生用紙が増加したが、主力の新聞用紙、印刷情報用紙の低迷により合計では減少。板紙では、通販向け段ボールが堅調に推移したが、電気製品等の輸出製品の梱包向け段ボールの減少が影響し合計では減少した。パルプの生産は紙の生産減を反映して減少した。

古紙消費は紙向けで大幅減、板紙向けでは微減。輸出は、中国の環境規制による輸入ライセンス発給減の影響は大きい。ベトナム、台湾等の東南アジア向けが大きく伸び、減少分を補う形となった。

パルプ材の集荷は、針葉樹、広葉樹共に減少した。針葉樹では、新聞用紙、板紙の生産減を受け大幅減。

国産材の優先集荷により輸入材の集荷減が顕著。広葉樹では、昨年10月頃より製品の減産が続いているため集荷が抑えられている。

新型コロナウイルスによる製品需要減の影響は針葉樹、広葉樹共に出ており、特に広葉樹は、テレワークの拡大に伴うコピー用紙の使用減や経済活動の停滞に伴う広告出稿量の減少等、紙の需要減が要因となり消費、集荷共に大きく減少している。

## 8. 国産材に関する動向（資料8）

5月上旬の森連共販所平均価格は、スギ柱用材が10,500円（前月比500円/m<sup>3</sup>安）、同中目材は10,400円（前月比300円/m<sup>3</sup>安）、ヒノキ柱用材が13,600円（前月比500円/m<sup>3</sup>安）、同中目材は14,000円（前月比100円/m<sup>3</sup>安）となった。

4月はスギの出材が前年に比べ大幅に減少。一方、ヒノキは近年で最も多い22千m<sup>3</sup>の出材となった。

各共販所の相場は柱用材、中目材共に弱基調の様相を呈し、スギ、ヒノキともに下げの価格となった。

これから虫害などの影響が出てくる時期であり、また、原木価格が低下した地域では生産量の調整により出荷量は落ち着いてくるとされるものの、依然として需給バランスの崩れが懸念される。

## 9. 国産材丸太（製材用）の需要動向（資料10 - P1）

2020年第1四半期の実績は、年度末の納期に向けた建築関係の駆け込み需要が続き、ほぼ前年並みの需要が続いたものとみられる。前年同期比で微減となった。

第2四半期の見込みは、建築需要について、新型コロナウイルスの影響で、年度末納期物件の住設機器の不足等により、完成引渡が5月はじめにまでずれ込んだ例も見られ、極端な需要減には至らなかった。

5月中旬以降徐々に需要は減少、外材製品価格の引き下げを契機とした価格の軟化もみられ、流通事業者の営業活動自粛等新たな需要の掘り起こしが困難な状況が継続。プレカット事業者の受注残は大手を中心に一定程度確保されている。前年同期比で減少の見込み。

第3四半期以降は、新型コロナウイルスの影響による、春需掘り起こしのための営業活動停止や消費マインドの冷え込みなどの状況が大きく作用すると予測するが、「新たな生活様式」による経済活動の再開が順調に進むことを期待。前年同期比では減少すると見通す。

原木供給は順調に推移しており、中国向け輸出も再開しているが、需要側の受け入れ制限等で原木の滞留が増加し原木価格が緩み始めている。また、新型コロナウイルスの影響による外出自粛による営業活動の停止、オリンピック・パラリンピックの延期等による消費マインドの冷え込み等が住宅、非住宅需要にどのように影響を与えるか注視が必要。

## 10. 国産材丸太（合板用）の需要動向（資料10 - P1）

2020年第1四半期の実績は、住宅着工の減少や働き方改革の影響があったものの国内合板工場のフル稼働や堅調な構造用合板需要、フロア合板用国産材合板の需要増大等の他、輸入合板の大幅な減少傾向、海外産地の違法伐採等の環境問題の影響等もあり、前年同期比で増加となった。

第2四半期は、前期要因のほか、新型コロナウイルスの影響により生産調整を行うメーカーもあり、前年同期比で減少の見込み。

第3四半期は、前期と同様の要因により、前年同期比で減少の見通し。

第4四半期も前期同様の要因とみるが、新型コロナウイルスの収束を期待し需要増加を見込む。前年同期並みの見通し。

国内外の新型コロナウイルス感染防止対策等による住宅着工等への影響、非住宅建築物の動向、トラック輸送の確保等に注視。

## 11. 米材丸太の需要動向（資料10 - P2）

2020年第1四半期の実績は、昨年末からのカナダ林産最大手の伐採停止や、昨年10月の消費増税以降の実需低迷の影響を受け、前期比、前年同期比で減少した。

第2四半期は、前期に引き続きカナダからの供給の見通しが立たないほか、新型コロナウイルス蔓延による経済活動自粛の影響から、住宅需要を中心に内需も低調に推移すると予測。前期比、前年同期比共に減少

の見込み。

第3四半期は、新型コロナウイルスが収束に向かっても経済活動の制約が残り、内需は浮上するに至らず引き続き低位で推移すると予測。前年同期比で減少の見通し。

第4四半期は、新型コロナウイルスの影響からは持ち直すものの、冬場の第二波感染の懸念も拭えず需要の本格的な回復は見通せないが、前年同期並みには回復すると予測。前期よりは増加し、前年同期並みの見通し。

新型コロナウイルスが終息してもすべてが元に戻るには時間が掛かり、特に住宅着工需要の今後の落ち込みを心配。また、米中の貿易問題も世界経済に大きく影を落としており、問題が更に先鋭化するようなら米材の供給面でも影響が大きく、注視する必要。

## 12. 米材製材品の需要動向（資料10 - P2）

2020年第1四半期の実績は、3月末決算の企業が多く、在庫調整があり出荷は伸びず前年同期比で減少した。また、海外での新型コロナウイルスの影響により住設機器の入荷が滞り、住宅の竣工受渡が遅延し新規着工も遅れたが、この時点では国内での影響は小さかった。

第2四半期は、プレカット工場等は受注残を抱えており4、5月は出荷が好調であったが、6月に入り伸びを欠いており、前期は上回るも前年同期比で減少の見込み。国内大手製材工場の値下げにより、各社当用買いに徹している。

第3四半期は、国内の新型コロナウイルスの影響により、大型連休中の住宅展示場での販促が行えず注文住宅の受注は苦戦。新規住宅着工が伸びず出荷も低調となると予想。前年同期比で減少の見通し。

第4四半期は、住宅の営業活動（訪問活動）が制限されたため今後の新規物件に不透明感があり、新規住宅着工数の伸びは期待できないと予測。前年同期比で減少の見通し。

## 13. 北洋材丸太の需要動向（資料10 - P4）

2020年第1四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響による合板工場の減産、製材工場の入荷抑制により、予想より需要は減少し前年同期比で約30%の減少となった。

第2四半期は、4月に新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言が発令され、今後の住宅着工に大きな不安心理を与えたこともあり、前年同期比で50%の大幅減少の見込み。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響により、住宅着工の延期や見直しが進むことが予想される。前年同期比約50%減の見通し。

第4四半期は、新型コロナウイルス収束後はテレワーク等の生活スタイルの変化を意識することが予想され、住宅着工は様子見の姿勢が出てくると予測。需要は前年同期比で約50%減の見通し。

## 14. ニュージーランド・チリ材 需要動向（資料10 - P5）

### (1) ニュージーランド材丸太の需要について

2020年第1四半期は、新型コロナウイルスの発生・拡大により貿易・物流が激減すると予測していたが、日本からの輸出減は前年同期比5.5%にとどまっており、丸太需要の実績は、3月末の大手最終需要家の決算を控えた需要下支え効果もあったことから、前年同期比で若干の減少となった。

第2四半期は、決算後の低需要期に加え、欧米や南米アフリカでは依然感染拡大が続いており、新型コロナウイルスの影響が最も顕著に出ると予想する。鉄・車・工作機械等の工場稼働率は低く、梱包用原木需要は前年同期比大幅減少の見込み。

第3四半期は、欧米の新型コロナウイルスがピークアウトし、中国、米国、欧州、東南アジア向け輸出が回復基調に乗り需要も上向くと予想するも、懸念材料は米中対立が国際貿易に及ぼす影響。夏場の低需要期に中国国内でのNZ原木価格の乱高下の影響による原木高が重なり、製材メーカーは厳しい状況になると予測。前期より増加するも前年同期比では大幅に減少の見通し。

第4四半期は、通常の高需要期に入るため需要は上向いていくが、新型コロナウイルスの後遺症で輸出・設備・公共投資共に前年を下回る推移が続くと予測。前年同期比では増加の見通し。

### (2) ニュージーランド・チリ材製材品の需要について

2020年第1四半期の実績は、丸太と同様に新型コロナウイルスの影響を心配していたが、輸出全体の落ち込み幅が小さかったため、前回予測したほどの減少とはならなかったものの、前年同期比で2割程度の減少となった。

第2四半期も、丸太と同様に新型コロナウイルスの影響が最も顕著に出ると予想。需要が非常に堅調であった昨年同期と比して半減すると見込む。

第3四半期は、新型コロナウイルスが沈静化に向かい輸出が回復基調に乗り需要は上向くが、夏場の低需要期で大きな増加は見込めない。入荷も絞られるため、昨年未から続いていたチリ材製品の過剰在庫問題は正常化すると予測。前年同期比で減少の見通し。

第4四半期は、クリスマスと年末を控え高需要期に入る時期だが、新型コロナウイルスの後遺症で輸出、設備投資、公共投資とも前年と比べマイナス推移が続くと予測。需要は徐々に増加するが通年で見ると前年レベルには戻らないと予想。米中の貿易問題の影響が大きかった前年同期よりは増加の見通し。

## 15. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給動向

### (1) 米材丸太の供給について（資料10 - P2）

2020年第1四半期の実績は、カナダ大手私有林伐採供給業者が昨年11月より無期限の伐採停止を実行中、一方、アメリカ産米マツは供給増であり製材、合板工場向けの配船をしたものの、全体では入荷減となった。前年同期比で減少。

第2四半期は、引き続きカナダ大手の伐採停止により前期と同程度の入荷数量と予想。前年同期比で減少の見込み。

第3四半期は、前期同様と予想。前年同期比で減少の見通し。

第4四半期は、カナダ大手は伐採を再開すると予想。前期比で増加も、前年同期比では減少の見通し。

### (2) 米材製材品の供給について（資料10 - P2）

2020年第1四半期の実績は、2×4住宅着工の減少に伴いSPFの需要が減少。また、大手サプライヤーのストライキに伴い米マツ、米ツガの入港が減少した。前期、前年同期比共に減少。

第2四半期は、SPFについては、貸家着工のピークアウトを主因として入港量が伸びない見込み。特に米ツガは大手サプライヤーのストライキ明け後に生産された商品が入港し始めるため、多少の増加を見込む。前年同期比で減少の見込み。

第3四半期は、現地での減産も対日向けの供給量に大きな変化は無く米マツ、米ツガについては前期比で微減の予想。SPFは、新型コロナウイルスの影響で、国内住宅メーカー各社とも受注は下振れの可能性があり、前期比半減となる企業もある模様。堅調な産地市況と日本市況のギャップもあり、難しい交渉となると予想される。前年同期比で大幅に減少の見通し。

第4四半期は、新型コロナウイルスの影響で入港量は伸びず、住宅着工も先行きが不安なため昨年以下振れすると予想する。前年同期比で減少の見通し。

住宅着工の先行きが不安定で、市場が新規発注に慎重になっている。プレカット工場、パネル工場の稼働も6月以降の先行きが見えなくなっており、不安を抱えた大手プレカット工場などからも今後の仕入れに対して慎重な声が聞かれ始めているため注視が必要。

### (3) 欧州材製材品の供給について（資料10 - P2）

2020年第1四半期の実績は、ラフ材（ラミナ、原板）はフィンランド企業のストライキや欧州の冬休みが起因して入港が減少した。完成品（羽柄材等S4S材）も国内在庫多く入荷が減少し、ヨーロッパ現地在庫が供給調整を行った為、前年同期比で減少した。

第2四半期は、ラフ材については、通常冬休み明けで、丸太出材も多く入港量が多くなる時期であるが、フィンランド企業のストライキや新型コロナウイルスの影響によるコンテナ確保難により入港が減少している。6月入港より徐々に回復すると予想。完成品は、5月下旬から船積み遅れの団子入港が重なり、入港量が増えており、港頭在庫量は増加していくと予想。前年同期比では減少の見込み。

第3四半期は、ラフ材は北欧7月一杯の夏休みで7月積み（8～9月入港分）の契約は減少すると予想。完成品は、4～6月積み契約分は港頭在庫減少局面での仕入れであったため受注量は増加。トータル

では前年同期比で減少の見通し。

第4四半期は、ラフ材については、新型コロナウイルスの影響で住宅着工、受注も伸び悩み国内需要も7～8月以降減少すると予想されるため、各社とも8～10月積み（10～12月入港）契約数量は落とすと予想。完成品も契約数量は減少の見込み。前年同期比で減少の見通し。

#### (4) 北洋材丸太の供給について（資料10 - P4）

2020年第1四半期の実績は、合板用カラマツは、カナダ私有林大手の伐採停止により代替需要が発生すると見込まれたが、造材長さの問題や輸出関税の上昇により、価格的にも妙味少なく代替とならなかった。一方、製材用アカマツ、エゾマツ、トドマツは前年並みの入荷となったが、前年同期比では大幅に減少した。

第2四半期は、国内針葉樹合板工場が20～30%の減産体制をとっているため、合板用の新規の輸入原木手当は延期される。製材用は一定の数量は出てくると予想。配船が集中した前年同期比では大幅に減少の見込み。

第3四半期も、国内合板工場の減産体制は維持されると見込まれる。各国の状況を鑑みても北洋材原木価格は下落する見込みであるものの、他産地と比して价格的に優位なレベルにはならないと予想。前年同期比では減少の見通し。

第4四半期は、前期同様、国内合板工場の減産体制は維持されると見込むものの、在庫原木の消化が進み必要な原木購入があると見込む。前年同期並みの見通し。

ロシアから輸出される原木輸出税の今後の動向、国産材原木の使用比率の増加に注視。

#### (5) 北洋材製材品の供給について（資料10 - P4）

2020年第1四半期の実績は、ラフ材に関しては、前年とほぼ同数であったが、S4S材の現地からの出荷が順調であったため、前年同期比でやや増加となった。

第2四半期は、ラフ材、S4S材ともに在庫水準が高く契約量が落ちている。前年同期並みの見込み。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響により国内需要が冷え込み、国内在庫の増加から新規契約量が大幅減。夏場に入り丸太の出材も減少するため、前年同期比で減少の見通し。

第4四半期は、秋から冬伐り丸太が出始めるものの、国内の在庫過多、需要低迷により低水準の入荷が続くと予測。前年同期比で減少の見通し。

#### (6) 輸入構造用集成材の供給について（資料10 - P7）

2020年第1四半期の実績は、需要は強かったが、現地の生産量は大手企業のストライキとの影響等で伸びず、前年同期並みとなった。

第2四半期は、国内の集成材メーカーが生産調整しているため、輸入集成材の現地サプライヤーへの引き合いは強かったものの、大手企業のストライキや船積み遅れ等により、前年同期並みの見込み。

第3四半期は、需要増から現地側が前期に受注を多めに受けており、北欧で今年当初より問題になっていた原木やコンテナの調達も改善しており、契約残の出荷が増加。一方で需要は減少し、港頭在庫は増加すると予測。前年同期比で増加の見通し。

第4四半期は、新型コロナウイルスの影響もあり、各社購入量を絞ると見込む。国内メーカーのラミナ在庫は、現状多少タイト感があるものの改善が見込まれ、輸入集成材への引き合いは減少と予想。国内米マツ大手の値下げを機に国内相場はすでに弱含んでおり、為替次第では現地側も採算分岐点に近づいてくる。前年同期比で減少の見通し。

### 16. ニュージーランド・チリ材の供給動向（資料10 - P5）

#### (1) ニュージーランド・チリ材丸太の供給について

2020年第1四半期の実績は、予定していた配船が一部4月にずれ込んだこともあり入荷は低水準となった。前年同期比で減少。

第2四半期は、NZ国内における新型コロナウイルスによる緊急事態で、伐採事業は一時操業を停止したため、入荷が減少している。前年同期比で大幅に減少の見込み。

第3四半期は、日本国内における新型コロナウイルスの影響による消費の落ち込みのほか、世界的な物流の冷え込みが予想され、梱包市場は大きく落ち込むと予想。前年同期比で減少の見通し。

第4四半期は、前期同様の傾向が続くと予想され、消費に見合った入荷が見込まれる。前年同期比で減少の見通し。

## (2) ニュージーランド・チリ材製材品の供給について

2020年第1四半期の実績は、2019年前半の大量入荷による流通在庫の増加に加え、新型コロナウイルスの影響により梱包業界が打撃を受けたため、前期に続き低水準の入荷となった。前年同期比で減少となった。

第2四半期は、産地供給サイド、日本需要サイドとも新型コロナウイルスの影響をもちに受け、歴史的な低水準の入荷となる見込み。前年同期比で大幅に減少の見込み。

第3四半期は、6月入荷が底と予測し若干の回復を見込み、前年同期並みの見通し。

第4四半期は、通常レベルに戻るものの、新型コロナウイルスによる経済の落ち込みが大きく、2019年前半のような100千<sup>3</sup>mを超えるレベルには戻らない。前年同期比で増加の見通し。

## 17. 南洋材丸太（製材用）、南洋材製材品の需要動向（資料10 - P3）

### (1) 南洋材丸太（製材用）の需要について

2020年第1四半期の実績は、中国における需要が引き続き弱く、輸出用梱包材を含め全般に厳しい状況であった。前年同期比で減少した。

第2四半期は、新型コロナウイルスの影響により世界的に需要急減速の状況となっており、引き続き低調と予想。昨年もこの時期は低調であったことから、前年同期並みとなる見込み。

第3四半期は、輸出関係は引き続き厳しい状況で推移すると思われ、前期程度の需要と予想。前年同期比では減少の見通し。

第4四半期は、アジア圏を中心に需要は回復傾向と期待し、前期比では増加すると予測するが、前年同期比では減少の見通し。

### (2) 南洋材製材品の需要について

2020年第1四半期の実績は、首都圏においては、オリンピックに伴う物件で店舗関係、整備事業等の需要を先取りしており、前年同期比で減少となった。

第2四半期は、新型コロナウイルスの発生により緊急事態宣言が発令されたことから、日を追うごとに資材の流れに停滞感が現れ始め、営業活動も抑制された。需要は前年同期比で減少の見込み。

第3四半期は、例年は夏の需要期であるが、新型コロナウイルスの影響により学校の夏休みが短縮されるため、学校の改修工事等は期待しにくい。一方で止まっていた民間のリフォーム物件などは進み、ある程度の需要は見込めると予想。前年同期比では減少の見通し。

第4四半期は、新型コロナウイルスの影響により収益の上がない民間の商業施設関係は期待しがたいが、生活様式の変化に伴い、公共施設等での細かい部分への改修工事の需要増に期待する。前年同期並みの見通し。

## 18. 南洋材丸太（合板用）の需要動向（資料10 - P3）

2020年第1四半期の実績は、国産針葉樹合板へのシフトの進行、産地価格の高止まり、産地の違法伐採対策等環境問題の影響増大、産地のインド、中国市場等へのシフト、サバ州の丸太輸出禁止の継続、インドネシア、サバ州からの単板輸入の増加等により減少傾向ではあるが、パプアニューギニアからの丸太輸入が確保出来ていることもあり、前年同期並みとなった。

第2四半期以降は、南洋材合板生産大手が2021年3月で解散を表明しており減少の見通し。

## 19. 国産、輸入合板の需要動向（資料10 - P6）

### (1) 国内製造合板の需要について

2020年第1四半期の実績は、消費増税の反動による需要の減少は2%程度の緩やかなものになると見

ていたが、後半には新型コロナウイルスへの警戒が要因として加わり予測以上に減少。前年同期比で減少となった。

第2四半期は、新型コロナウイルスの影響により、住宅部品生産の遅れからの工期遅れによる需要減少を見込んでいたが、更に契約キャンセルも加わり需要減少は拡大すると予想。前年同期比で減少の見込み。

第3四半期は、昨年の消費増税後のなだらかな反動減に加え、新型コロナウイルスの影響による契約済み物件の工期遅れや新規契約のキャンセル、延期等により、需要は大きく減少すると予想。昨年は消費増税前に需要が大きく伸びたこともあり、前年同期比で大幅に減少の見通し。

第4四半期は、流通販売店は延期した新築・リフォーム契約の回復時期が秋口と考えていること、営業のニューノーマル化(オンラインツールの活用等)による再開、非住宅向け等への補助金政策効果が期待されること等から、需要は徐々に回復に向かうと予測。前期より回復するも前年同期比では減少の見通し。

## (2) 輸入合板の需要について

2020年第1四半期は、消費増税後の反動、国内合板への代替傾向の進展等により前年同期比で減少した。

第2四半期は、例年、構造用合板・型枠用合板の引き合い増加の時期だが当用買い中心の状況。マレーシア現地工場の稼働は再開したが通常生産にはほど遠く、前年同期比で減少の見込み。

第3四半期は、輸入塗装型枠合板の需要を支える大型建設現場の荷動きは、昨年来、東京オリンピック・パラリンピック開催期間の物流等への配慮から控えめの予想であったが、新型コロナウイルスの影響による工期遅れ、契約キャンセルや延期等の減少要因が加わり、前期よりさらに減少すると予想。前年同期比で減少の見通し。

第4四半期は、新型コロナウイルス対策としてオンラインツールの活用等によるニューノーマルな業務、第二波抑制策等が進むとの前提で、新築・リフォーム契約数が底打ち後回復に向かうと予測。また、それに合わせ現地工場の生産、商社との現地成約が回復し入港が回復すれば、需要も徐々に回復すると予測。型枠合板需要は、オリンピック・パラリンピック後に計画している建設物件の着工時期が需要回復時期の判断ポイント。前期よりも増加するが、前年同期比で減少の見通し。

## 20. 南洋材、輸入合板の供給動向

### (1) 南洋材丸太の供給について (資料10 - P3)

2020年第1四半期の実績は、産地側の雨季による出材不足により入荷が減少。同期の消費量に対して低水準の入荷となった。前年同期比で減少した。

第2四半期は、新型コロナウイルスの影響による都市封鎖が長期化したことにより、マレーシア、PNG共に伐採事業を一時停止するところも出た。また、PNGでは本船の入港制限により配船を見送るケースが見られたため入荷減となり、前年同期比で減少の見込み。

第3四半期は、PNGの主力伐採林区の雨季による出材減、新型コロナウイルスの拡大防止のため国内緊急事態が宣言されたことによる木材関連消費の落ち込みにより入荷減となると予想。前年の入荷が少なかったため、前年同期比では増加の見通し。

第4四半期は、新潟の大手合板メーカーが3月に操業を停止するため、大幅な入荷減となる予想。前年同期比で大きく減少する見通し。

### (2) 南洋材製材品の供給について (資料10 - P3)

2020年第1四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響により、中国より入荷する南洋材が10%以上落ち込むと予想していたが、DIYでの販売が好調であったため、フリー板を中心にそこまでの減少とはならなかった。前年同期比では減少した。

第2、第3四半期は、新型コロナウイルスの影響により、マレーシアの製材工場で操業減となるも、国内のDIY向けの販売が好調でフリー板への引き合いが増加しており、供給側も在庫等により対応しており、大幅な入荷減とはならないと予想。供給・需要とも昨年レベルには届かず、前年同期比で減少の見込み。

み、見通し。

第4四半期は、新型コロナウイルスが沈静化し平均的な入荷水準に戻るものと予想。ほぼ前年同期並みの見通し。

### (3) 輸入合板の供給について (資料10 - P6)

2020年第1四半期の実績は、新型コロナウイルスの影響により中国の合板製造に支障が発生したため、中国合板の2月の入港量が大幅に落ち込んだが、3月には相当程度回復したため、入荷は小幅な減少にとどまった。前年同期比で減少となった。

第2四半期は、中国合板は前期の契約残の消化に注力し増産。インドネシア、マレーシア合板も、新型コロナウイルスの影響により国内のDIY需要が急増し、ホームセンターの需要が増加したため前年同レベルの入港と予想。前年同期並みの見込み。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響により、住宅メーカーの3～4月の新規受注が昨年比で30～40%程度減少しており、この影響が出始めると予想。また、自動車関連中心に輸出の低迷による梱包用合板需要が大幅に減少すると予想。前年同期比で減少の見通し。

第4四半期は、前期同様、新型コロナウイルスの影響による需要低迷が継続すると予測。特にマレーシア合板は住宅着工の影響を受けやすい合板が多く、国内合板とも競合するため50千<sup>m</sup>レベル(昨年四半期平均の6割程度)まで入港量が落ち込むと予測。前年同期比で20%程度減少の見通し。

## 21. 国内製造合板の供給について (資料10 - P6)

2020年第1四半期の実績は、国内合板工場のフル稼働、設備投資(大分、山梨等)による国産材合板の生産能力・効率の工場、堅調な構造用合板需要、フロア台板用国産材合板の需要増大見通し、輸入合板の大幅な減少傾向等の一方で、住宅着工の減少や働き方改革の影響もあったものの、前年同期並みとなった。

第2四半期以降は、新型コロナウイルスの影響により生産調整を行うメーカーもあり、前年同期比で減少の見込み。

## 22. 国内製造構造用集成材の供給動向 (資料10 - P7)

2020年第1四半期は、昨年の消費増税の駆け込み需要や増税影響緩和策等によるものと思われる需要増により、前年同期比で増加した。

第2四半期は、今年に入り住宅着工戸数が1割減で推移してきており、プレカット工場の稼働率も低下している。フィンランド企業のストライキ等により一時心配されたラミナ入手難は回避された模様。前期比では増加するも、前年同期比で減少の見込み。

第3四半期は、新型コロナウイルスの影響が顕著に出始めるタイミングであり、前期、前年同期比共に減少の見通し。

第4四半期は、新型コロナウイルスの影響は継続していると予想。状況が見通せず予測困難であるため、前期並みの見通しとする。